

燃え上る職場・追いつめられる当局

日新 動労千葉

80.6.10
NO.452

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話）二五八・九（公衆電話）二七二〇七

更に長期強靱な非協力の闘争へ

「あんなデタラメな処分があつてたまるか！」「指令以上の闘いを自分はやりたい！——」この職場にも、今激しい怒りがにえたぎり、当局と「本部」反動分子一体の醜悪きわまりない今回の選別的不当処分攻撃への反撃が長期強靱に闘いつづけられている。いかに当局が血まなこになって大量の局管理者、公安などを、職場に投入してみてもつぎからつぎへと湧き出してくる「不当処分粉砕・反動局長秋山追放！」の声は、連日管内職場をゆるがしている。

夜も眠られずガンドウさ げて「深夜の構内巡視」

動労千葉破壊の選別的弾圧意志を露骨にしつつ、大量不当処分の発表された五月三十一日、国労・動労「本部」の完全な闘争放棄を大きくのりこえて、怒りのスローガン列車が全管内・首都圏はおろか特急「あずさ」に至っては石灰の白文字も鮮やかに「不当処分粉砕・反動局長秋山追放！」のスローガンを遠路はるばる長野まで運び、抗議の意志を貫徹した。そして、六月二日、三日、四日と減産B行動への決起。反動秋山局長は顔面そう白となつた。全職制と公安に非常呼集がかかり、おっとり刀で五月三十一日の夜から、津田沼・幕張・勝浦・成田の電車基地を中心にマル生当時以来の異例の局対策要員をはりつけ、ガンドウ持たせて、「夜間巡回」を命じた。消耗を顔つきの職制達から始発電車が動き出すまでは三十分間隔で巡回するのである。

各職場の仲間、当局の一挙手一投足を完全に把握している。だからこの「深夜の構内巡視」では、何も「異状を発見」することはできない。しかし、どこからともなく石灰の色も鮮かに裕とスローガン列車は動労千葉の決意を示して走るので。全員が団結し、最後の勝利をもぎとる執念にもえ立っている動労千葉の手足をしばる事は絶対にできない。

「現認班・カメラ」まで持ち出し て挑発するが、これも失敗……

「深夜の構内巡視」がさっぱり効果を上げない

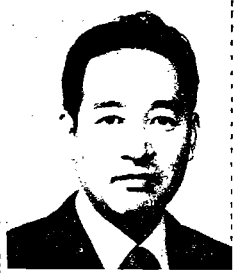
衆議院議員推せん候補



木原 (二区)



小川 (二区)



辻田 (三区)



新村 (四区)

のと、現場職制の猛烈な不満と反発と、疲労こんばいに困り切った反動秋山局長が、知恵を絞って考えたのが、見えすいた挑発路線であった。六月四日朝、千葉駅三・四番線と五・六番線ホームの詰所周辺に多数の局課員と公安を動員し、カメラを持たせた現認班までつくって、これみよがしに組合員の居る目の前でピラはがしをはじめたのである。こんな見えすいたワナにはまるほど、われわれの怒りと必勝の執念はチャチなものではない。見事からぶりで、スゴスゴ引き上げた。

そして、また、不死鳥のように抗議のピラが復活し、前回にもまして組合員の怒りと団結は強まり、「どのようにして勝つか」を全員が一人一人実地教育をつみ上げていく。誰もが動労千葉の路線と戦術に勝利の自信、したたかな手ごたえを実感している。

「なんでもかんでも現認報告を上げる。特に「秋山」という字の書いてあるピラは絶対許すな」と反動秋山局長が直々に指示しても、現場職制はますます意気消沈——「現認報告」など一枚も上らないのだ。

デッチ上げと政治的意図で労働者の首を切った——このことを撤回しない限り、我々の怒りは決して収まりはしないし、五五・一〇、五六・三へむけての闘いの決意も高まるばかりだという事を当局は知らねばならない。

すでに、着実に効果を示しはじめた長期強靱な非協力闘争で、更に更に当局を追いつめ、不当処分粉砕・反動局長秋山追放をかちとっていきこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ